

付 録

主要年表

年 号	西 暦	主 な 出 来 事
慶応 3年	1867	・立花由松、阿部屋（あぶや）の鮭漁場の納屋守として、対雁に移住
明治 4年	1871	・対雁村の設置 ・仙台涌谷領から農民21戸対雁に移住
11年	1878	・第1次江別屯田兵10戸入地 ・江別村の設置
13年	1880	・江別、対雁両村戸長役場の設置（対雁村）
14年	1881	・篠津村の設置 ・江別、対雁、篠津の3村戸長役場となる ・第1次篠津屯田兵19戸入地
16年	1883	・幌向村の設置（札幌県告示、対雁戸長所掌） ・開成社、江別太に3戸入植
17年	1884	・第2次江別屯田兵75戸入地
18年	1885	・第3次江別屯田兵43戸入地 ・第2次篠津屯田兵30戸入地 ・第1次野幌屯田兵138戸入地
19年	1886	・戸長役場を対雁から江別村に移す ・第4次江別屯田兵28戸入地 ・第2次野幌屯田兵87戸入地 ・北越殖民社、江別太石狩川畔に10戸（試墾移民）入植 ・第3次篠津屯田兵10戸入地
22年	1889	・篠津村戸長役場の廃止 ・小野幌、豊幌に最初の移民あり
23年	1890	・北越殖民社集団入植115戸野幌に入る
24年	1891	・大麻に最初の移民あり
28年	1895	・八幡に最初の移民あり
29年	1896	・篠津村から“新篠津村”分村
31年	1898	・対雁川下（現中島）に最初の入植あり
34年	1901	・幌向村の南6線以北を江別村に編入する
39年	1906	・二級町村制の施行（江別、篠津、対雁の3村合併し、江別村とする） ・初の村会開催
42年	1909	・一級町村制の施行
大正2年	1913	・小野幌の一部、白石村に編入
5年	1916	・江別町となる（町制施行）、人口16,732人、戸数2,389戸
7年	1918	・小野幌の一部（大正2年移管の残余）白石村に編入
9年	1920	・第1回国勢調査の実施（人口18,992人）
昭和10年	1935	・江別町全地域の町名地番改正（4月）
20年	1945	・拓北農兵隊33世帯、東京世田谷から入植（7月）
23年	1948	・美原豊栄開拓入植の開始（11月）
24年	1949	・元江別の一部を緑町東1丁目～緑町東4丁目、緑町西1丁目～緑町西3丁目、一番町北1丁目、一番町南1丁目に町名変更（8月）
25年	1950	・第7回国勢調査の結果、人口3万人を超える（人口31,647人、5,670世帯）（10月）
27年	1952	・住民登録法施行による第1回人口調査の実施（7月）
29年	1954	・江別市となる（市制施行）、人口34,359人、6,117世帯（7月）
30年	1955	・札幌市との境界一部変更～上福移（角山豊石）を江別に編入、市域面積188.642km ² となる（4月）
32年	1957	・元野幌の一部を野幌町に町名変更（7月） ・元野幌の一部を野幌町に編入、福移の全部を角山に編入（8月）
34年	1959	・篠津の一部を中島に町名変更（4月）
36年	1961	・元江別の一部を弥生町、一番町に町名変更（4月） ・一番町北1丁目、一番町南1丁目を一番町に編入、元江別の一部を弥生町に編入（5月）
38年	1963	・王子の一部を7条6丁目に編入（8月） ・元江別の一部を高砂町、向ヶ丘に町名変更、元野幌の一部を幸町、錦町に町名変更（12月）
39年	1964	・上江別の一部を東野幌に、元野幌の一部を幸町に、元江別の一部を高砂町に編入（10月） ・大麻団地への入居開始（第1期276戸）（12月）
40年	1965	・元野幌の一部を晴美町、南樹町に、大麻の一部を大麻西町、大麻扇町、大麻沢町、大麻宮町、大麻中町、大麻高町、大麻東町、大麻園町に町名変更（2月）
43年	1968	・町名の字名廃止（8月） ・大麻団地人口1万人を超える（11月）
45年	1970	・江別太の一部を東光町に町名変更（4月） ・第11回国勢調査の結果、人口63,762人、世帯数17,223世帯となって伸び率が道内市部で全道一（10月）
48年	1973	・西野幌の一部を文京台に町名変更（6月）
49年	1974	・元野幌の一部を大麻泉町、大麻栄町、大麻新町に、晴美町を大麻晴美町に、南樹町を大麻南樹町に町名変更（11月）
50年	1975	・東野幌の一部を東野幌本町に、西野幌の一部を野幌若葉町に町名変更、緑町東1丁目、緑町東2丁目の一部を王子に編入（7月）

年号	西暦	主な出来事
51年	1976	・江別太の一部を東光町に編入し、江別太の一部を朝日町、あけぼの町に町名変更（11月）
53年	1978	・対雁、角山、元江別の一部を工栄町に町名変更（3月）
54年	1979	・上江別の一部を上江別東町、上江別西町、上江別南町に町名変更（11月）
55年	1980	・元野幌と野幌町の一部を野幌松並町、野幌末広町に町名変更、元野幌の一部を野幌住吉町、野幌代々木町に町名変更（9月）
56年	1981	・西野幌の一部を文京台東町に、西野幌と文京台の一部を文京台南町に町名変更（1月） ・東野幌の一部を野幌東町に町名変更（7月） ・元江別の一部を牧場町、元町に町名変更、元江別と一番町の一部を若草町に町名変更、対雁の一部を緑町東3丁目、緑町西3丁目に編入（11月）
57年	1982	・江別太の一部を豊幌に編入（5月） ・元江別の一部を元江別本町に、元野幌の一部を中央町に町名変更、元江別の一部を向ヶ丘に、元野幌の一部を錦町に編入（11月）
59年	1984	・元野幌の一部を大麻北町に町名変更、元野幌の一部を大麻に編入（4月）
60年	1985	・大麻の一部を大麻元町に、西野幌の一部を文京台緑町、野幌若葉町に町名変更、西野幌の一部を文京台に編入（4月）
61年	1986	・元江別の一部を見晴台に町名変更（1月） ・東野幌の一部を東野幌町に町名変更（7月） ・西野幌の一部を文京台に編入（11月）
62年	1987	・元野幌の一部を野幌寿町、野幌屯田町、野幌美幸町に町名変更（9月）
63年	1988	・東野幌と西野幌の一部を緑ヶ丘に町名変更、東野幌の一部を東野幌本町に、西野幌の一部を野幌若葉町に編入（11月）
平成2年	1990	・元野幌の一部を中央町、野幌寿町、野幌屯田町、野幌美幸町に編入（2月）
3年	1991	・元江別の一部を見晴台に編入（8月） ・人口10万人を超える（道内10番目の10万都市）（11月）
4年	1992	・東野幌の一部と西野幌の一部を緑ヶ丘に編入（8月）
6年	1994	・人口11万人を超える（7月）
7年	1995	・対雁の一部をいずみ野に町名変更（2月）
8年	1996	・対雁の一部をいずみ野に編入（4月）
10年	1998	・東野幌の一部をあさひが丘に町名変更（3月） ・人口12万人を超える（7月）
12年	2000	・豊幌の一部を豊幌花園町、豊幌美咲町、豊幌はみんぐ町に町名変更（10月）
13年	2001	・江別太の一部をあけぼの町に編入（3月）
14年	2002	・上江別の一部をゆめみ野東町、ゆめみ野南町に町名変更、上江別の一部を上江別東町、上江別南町、朝日町に編入（10月）
15年	2003	・江別太の一部を萌えぎ野西、萌えぎ野中央、萌えぎ野東に町名変更（2月）
18年	2006	・大麻の一部を大麻桜木町、大麻ひかり町に町名変更（10月）
20年	2008	・元野幌の一部を新栄台に町名変更（10月）
22年	2010	・第19回国勢調査、江別市戦後初の人口減少（人口123,722人）（10月）
25年	2013	・元野幌の一部を大麻泉町に編入（11月）

資料 えべつ昭和史、新江別市史

統計情報の参考になるホームページ

関係機関等・リンク先アドレス (URL)	主な内容
北海道統計課 https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/tuk/	北海道の統計情報。生活・人口・労働・経済などの統計調査データを閲覧できます。
総務省統計局 https://www.stat.go.jp/	日本の統計の中核機関。日本の人口、消費者物価指数、失業率などの最新データほか、各種統計調査、政府の総合統計書など閲覧できます。
政府統計の総合窓口 e-Stat https://www.e-stat.go.jp/	数字で見る日本。日本の統計が閲覧できる政府統計のポータルサイト。
独立行政法人統計センター https://www.nstac.go.jp/	総務省統計局所管の国勢調査や消費者物価指数など基本となる統計の作成ほか、公的統計の統計データを提供しています。
公益財団法人統計情報研究開発センター https://www.sinfonica.or.jp/	主に総務省統計局が公表等している統計情報を各種デジタルデータ（電磁的記録媒体）として提供（有料）しています。

注) アドレスは令和5年3月現在

令和5年3月 印刷
令和5年3月 発行

江別市統計書

2023年版

発行 江別市企画政策部企画課
北海道江別市高砂町6番地
電話 代表 (011) 382-4141
内線2312・2313
直通 (011) 381-1402

印刷 笹岡印刷株式会社

※この統計書は再生紙を使用しています。

定価 1200円(消費税込み)